

# 「無線 LAN 利用促進のための 学生の行動・意識調査と普及計画」

清水 真人\*,坂巻 達也\*,尾田 基\*  
春山 祥一\*\*,尾畑 裕\*\*\*

\*一橋大学 HIT access

\*\*社団法人如水会 専門委員 / 株式会社オレガディール 取締役

\*\*\*一橋大学大学院商学研究科 教授

[info@hitaccess.mercury.ne.jp](mailto:info@hitaccess.mercury.ne.jp)

## 1.はじめに

現在、社会のあらゆる場面で IT を利用することが多くなった。各種端末の高機能化やネットワークの整備も手伝い、いまや従来の知的活動をそのまま IT を駆使して行うことが当然のごとく求められてきている。特に大企業ではノート PC があたかも文房具のように身近に持ち歩くのが当然となっている。

ここで一橋大学の学生を顧みるに、果たして IT をうまく利用できているのであろうか。また必要な知識やリテラシーを学べているのだろうか。

我々 HIT access は、学生の IT 活用を支援している団体で、昨年秋から大学生協カフェテリアに敷設された無線 LAN スペース（如水会オープンアクセスフロア）と、インターネット上で共同作業をするための Web サービス（如水会デジタルワークプレース<sup>1</sup>）を学内に広める活動を行っている。

そのような活動を通じ、学生の IT リテラシーが社会において要求される水準と乖離していること、学生が IT を活用していく上でいくつかの抵抗感や障害があることを感じるに至った。

無線 LAN 利用促進の観点から、今回の研究には 2 つのねらいがある。一つは質問紙調査を利用し学生のリテラシーの現状、向上阻害要因を探ること。もう一つは、いくつかの事業企画を提案することで学内の IT リテラシー、IT 環境の向上を図ることである。

## 2. 1 本研究の年間行動計画

本研究の概観および 6 月現在まで進捗状況を以下に示す。

まず、IT リテラシーや IT 利用状況の現状把握を行う。この分析には各種サービスのログや質問紙調査を用いる。（4 月～）

次に、現状を作り出している要因、リテラシーを改善するためのポイントを絞り込む。（6, 7 月）

第三に、その要因を払拭する、あるいは改善するような事業企画を行う。（8 月～）

最後に再度現状を調査し、事業企画による意識の変化を探る。また、それらを元に、更なる事業計画を立案し提言を行う。（翌年 2 月～）

## 2. 2 質問紙調査計画

現状把握や事業企画の立案のために、全学を対象とした質問紙調査を行う。まず予備調査を 150 人程度に対して行い、質問紙を改善した後、本調査を 1000 人程度に実施する予定である。（一橋大学は全構成員で約 8000 人）また、事業企画実施後にも同様の質問紙調査を再度行う。なお、本論文における調査結果は 6 月上旬に行った予備調査によるものである。（有効回答数 159。データの詳細は <http://hitaccess.josuikei.net/> にて公開予定）

予備調査では以下のような質問項目を聞いた。現状把握のために、ノートパソコンの保有状況、及びインターネットの環境状況、ノートパソコンを持ち歩くことについての抵抗感について聞いた。（物理的、心理的両面から）

また、事業企画の足がかりとして、読書やコミュ

<sup>1</sup>この詳細については、「母校学生 IT リテラシー向上支援事業について」

<http://hitaccess.mercury.ne.jp/josuiITproject.htm> を参照。

ニケーションといった学生の知的行動と IT の関わり方について。無線 LAN に対しどの程度ニーズがあるのか、何処に無線 LAN スポットが存在すると望ましいのか、などを聞いた。

### 3.1 一橋大学の現状分析

質問紙調査の結果概要をいくつか紹介する。IT リテラシー調査として、いくつかの用語の意味を選んでもらい、基本的な操作についてできるかどうか5段階で自己評価してもらった。(質問 2.1、2.2) おおむね良い正答率、自己評価であり、基本的な PC 利用については問題ないと言える。

全体の PC の保有率は、93.1%、ノートブック型 PC の保有率は 65.4% であり、比較対象となる数値はないが、これも高い保有率をたもっている。また自宅で ADSL 接続していて(質問 3-4) インターネットを重要と認識している層も 88.8% と非常に高い。(質問 4-4) PC、インターネットを必需品とみなしていると言える。

一方で講義での IT の利用もまだ限定されていることから、ノート PC をキャンパスで持ち歩く学生は、本学では極端に少ない。(質問 3-6) 必需ではあるが必携ではない、そのような現状が浮き彫りになる。

個人所有以外の、主に大学から提供されている IT 資源に目を向けてみよう。一橋大学総合情報処理センターによると、全学生に対して発行している大学のメールアカウントを利用している学生は年々減少し、最近では半分にも満たないという。図 1、図 2 はメールサーバーのログである。(一橋大学総合情報処理センター調べ)

講義や諸連絡で義務的に使われることも少なかったこともあり、学生の IT 利用は携帯メールやフリーメールに流れている。本人確認ができ、所属大学が明示される有用な資源であるということを認識できていない学生や、そのようなアドレスを有効活用しない大学を鑑みるに、大学の IT 資源は空洞化していると言える。

自由に使える端末がキャンパスの端にある点や各教室に十分な電源や LAN のコネクタが無い点をふまえると一橋大学の IT 設備は他大学と比べてさほど良い物とは言えない。このことを学生はどう思っているのだろうか。

**質問 6-3 現在ある大学およびその周辺のネット環境は十分だと思いますか？**

- a: 十分であり、満足している 28.9%
- b: 不十分であるが、特に不満を感じていない 42.8%
- c: 不十分であり、不満である 21.4%
- d: そもそもネット自体必要としていない 1.9%

特に不満を感じていない層が 7 割を超えている。ノート PC を持ち歩かないことも踏まえると「常に持ち歩き、自由にインターネットへ接続できることのメリット」を十分に認識できていないという状態であると考えられる。

更に、現状認識の助けとして本研究以前に行われてきた本学での IT 普及事業についても言及しておきたい。OB 会(如水会)と大学生協が提携して、以下のような事業が昨年秋から行われている。

- ・国立キャンパスの東西の学食・喫茶・カフェテリアに無線 LAN を敷設し、誰でもインターネットが利用できるようにする
- ・学生・教職員・OB 等がインターネット上において安全で効率よく様々な共同作業をするための「デジタルワークスペース」を構築し、貸与する
- ・最新かつ最適なノートパソコンを、可能な限り学生に廉価で販売する

次に具体的な問題点を探る。

### 3.2 リテラシー向上の阻害要因

要因はいくつかに分類して考えることができる。まず、施設の問題として、各教室に電源用のコンセントが設置されていないためノートパソコンを授業に活用しようにも電源が取れない、学内の中心的情報施設である情報教育棟がキャンパスの西

端というアクセスの悪い場所にある、といった点が挙げられる。

次に、学内制度の問題として、履修登録や各種手続きなどの学内システムについても、IT化が進んでいるとは言い難い。それゆえ、学生としてもIT利用の必要性を感じず、結果的にリテラシーを向上させる機会も損なわれているように思われる。

ノートPCの物理的な問題として、「重い」との自由記述が質問紙調査に多数寄せられた。予備調査ではノートPCに占めるサブノート型の比率を調べていないので推測の域を出ないが、サブノート型を所有する人の割合は少ないと想像される。3kg以上あるものを持ち運び気にならないという心情は重要な視点であると思われる。心理的な問題としては、やはり人目を気にする人が多い。

PCの価格や性能等、製品自体についての問題は一橋大学に限った要因ではないので、今回は捨象した。

### 3.3 事業企画

#### 3.3.1 無線LANスポット試験的増設

学内及び大学周辺においては、無線ネットワークを利用できる環境は現状ではまだ乏しい。そこで、学内の一部だけでなく、大学周辺にいくつか無線LANスポットを設置したらどう変化が起こるかという実験を行う。

今回は大学周辺のファーストフード店、カフェをターゲットにした。

学内ではなく、学外を選んだ理由は事業企画の自由度を高めるためであり、据え置きPCの設置ではなく、無線LANのアクセスポイントを選んだのはインフラ提供側の負担コストが低く、導入しやすい点を重視した。店の選定に当たっては、以下の質問紙調査の結果によるところが大きい。

**質問6-5**大学の外でノートパソコンによるインターネットが使えるようになるとすれば、何処で利用したいと思いますか？（複数回答可）

a:ロージナ茶房 13 b:バーミヤン 21  
c:モスバーガー 49 d:マクドナルド 26  
e:ドトールコーヒー 41 f:EXCELSIOR 45  
g:大学通りのベンチなどの屋外 33  
h:その他 6 I:別に要らない 21

上記の大学周辺における飲食店を挙げ、どこならPCを使う気になるかを聞いた。aのロージナ茶房は国立市に昔からある喫茶兼レストランで、テーブルが広く、そういった作業がしやすい場所と想定して選択肢に入れた。bのバーミヤンは周辺では唯一朝5時まで営業している店舗である。

結果を見ると、モスバーガーやドトールコーヒー、EXCELSIORのように比較のお洒落でイメージが良く、落ち着けるところが上位に上がった。学生がPCを扱う場所を選ぶ際に、イメージが重要な要素であることが想起される。

#### 3.3.2 大学生協への各種改善策提案

一橋大学におけるIT推進の動きが最も活発なのは、如水会と大学生協の提携による各種事業だ。ここにも、今回の調査をふまえて改善の余地があると思われる。

現在一橋大学生協のカフェテリアでは無線LANのサービスが実施されている。3.3.1で挙げたように、学生が店舗をイメージで選好するという結果から、カフェテリアのイメージ改善が生協の各種利用に与える影響は大きいと言える。

また、現在生協では無線LAN対応のノートパソコンの廉価販売をしているが、これについても特にサブノート型中心の販促を行った方が良いと考えられる。3kgもあるパソコンでは持ち運びに辛く、下宿や自宅でデスクトップの代わりのような使い方になってしまう。更にノートPCの所有率を上げていくためにはサブノートを積極的に販売し、ユーザーが利用している様子が頻繁に目に付く様な状況を築くことが重要と考えられる。

